

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における当社を取り巻く市場環境は、海外においては、欧米をはじめとする世界経済の回復に支えられ、とりわけ中国における生産設備の自動化ニーズの高まりを受け工作機械やロボット向け需要が好調に推移する等、緩やかな回復基調となりました。国内においては、老朽化設備の更新需要及び自動化・省力化投資の増加等を背景に、緩やかな回復基調となりました。

このような環境のもと、当社は2018年度中期経営計画「Renovation2018」の基本方針に掲げた「富士電機の更なる変革」の成長戦略として、「パワエレシステム事業」の強化、ものづくり力の更なる強化を推進するとともに、事業活動に伴うあらゆるコストの見直しを行う「Pro-7活動」の再活性化により、収益力の更なる強化を推し進めています。

当第2四半期連結累計期間の連結業績の売上高は、需要増加に加え、為替変動による増収影響もあり、前年同期に比べ435億円増加の3,950億円となりました。部門別には「パワエレシステム・インダストリーソリューション」、「発電」、「電子デバイス」、「食品流通」、「その他」は前年同期を上回りましたが、「パワエレシステム・エネルギーソリューション」は前年同期の大口案件等の影響により、前年同期と同水準となりました。

損益面は、営業損益は需要増加及び原価低減等の推進により前年同期に比べ69億円増加の127億円、経常損益は為替差損の減少を主因に前年同期に比べ90億円増加の117億円、親会社株主に帰属する四半期純損益は前年同期に比べ62億円増加の62億円となり、営業損益、経常損益、親会社株主に帰属する四半期純損益いずれも、第2四半期連結累計期間としては過去最高を更新しました。

当第2四半期連結累計期間の連結経営成績は次のとおりです。

(単位：億円)

	平成29年3月期 第2四半期連結累計期間	平成30年3月期 第2四半期連結累計期間	増減
売上高	3,516	3,950	435
営業損益	59	127	69
経常損益	27	117	90
親会社株主に帰属する 四半期純損益	0	62	62

部門別の状況

《パワエレシステム・エネルギーソリューション》

売上高：943億円（前年同期比 同水準） 営業損益：28億円（前年同期比 3億円増加）

変電システムにおける前年同期の大口案件及び電源システム分野の需要減少が影響したものの、工作機械向けの需要増加により器具分野が堅調に推移し、売上高は前年同期と同水準、営業損益は前年同期を上回りました。

- ・エネルギーマネジメント分野は、スマートメータの物量減少を主因に、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。
- ・変電システム分野は、設備投資需要の高まりから堅調に推移したものの、前年同期の産業向け大口案件の影響により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。
- ・電源システム分野は、海外における盤事業の需要減少等により、売上高は前年同期を下回りましたが、原価低減等の推進により、営業損益は前年同期を上回りました。
- ・器具分野は、工作機械をはじめとする機械セットメーカ及び海外の需要が堅調に推移し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

《パワーエレクトロニクス・インダストリーソリューション》

売上高：1,342億円（前年同期比 19%増加） 営業損益：11億円（前年同期比 32億円増加）

前年同期の大口案件の影響により設備工事分野が減少したものの、国内・中国の生産設備の自動化需要が旺盛なファクトリーオートメーション分野、国内の設備更新需要が堅調なプロセスオートメーション分野、ならびにITソリューション分野が牽引し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

- ・ファクトリーオートメーション分野は、インバータ・F Aコンポーネント・回転機を中心に国内及び中国の市場が堅調に推移したことにより、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・プロセスオートメーション分野は、国内の更新需要が堅調に推移し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・環境・社会ソリューション分野は、海外における鉄道車両用電機品の需要が増加し、売上高は前年同期を上回りましたが、案件差等により、営業損益は前年同期を下回りました。
- ・設備工事分野は、空調設備事業が堅調に推移したものの、前年同期の大口案件の影響により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。
- ・ITソリューション分野は、公共向け及び文教向けの案件増加により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

《発電》

売上高：379億円（前年同期比 23%増加） 営業損益：12億円（前年同期比 9億円減少）

- ・発電分野は、水力発電設備の大口案件が減少したものの、太陽光発電システムの大口案件増加を主因に、売上高は前年同期を上回りましたが、案件差等により、営業損益は前年同期を下回りました。

《電子デバイス》

売上高：647億円（前年同期比 12%増加） 営業損益：67億円（前年同期比 35億円増加）

- ・電子デバイス分野は、国内及び中国の市場が堅調に推移したことで、産業向け半導体の需要が増加し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

《食品流通》

売上高：555億円（前年同期比 12%増加） 営業損益：22億円（前年同期比 2億円増加）

- ・自販機分野は、中国市場における顧客の展開計画見直しによる投資抑制等が継続したものの、国内市場における需要が堅調に推移し、売上高は前年同期を上回り、営業損益は前年同期と同水準となりました。
- ・店舗流通分野は、コンビニエンスストア向け店舗設備機器等の需要増加により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

《その他》

売上高：299億円（前年同期比 6%増加） 営業損益：15億円（前年同期比 4億円増加）

(2) 財政状態に関する説明

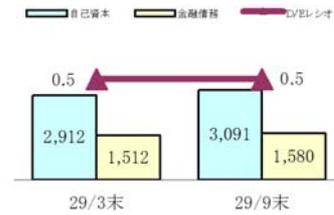
(単位：億円、倍)

	29/3 末	構成比 (%)	29/9 末	構成比 (%)	増減
総資産	8,867	100.0	8,903	100.0	+36
金融債務残高	1,512	17.1	1,580	17.7	+67
自己資本	2,912	32.8	3,091	34.7	+179
D/E レシオ	0.5		0.5		0.0

*自己資本=純資産合計-非支配株主持分

*D/E レシオ=金融債務残高/自己資本

(単位：億円、倍)



当第2四半期末の総資産は8,903億円となり、前期末に比べ36億円増加しました。流動資産は、たな卸資産が増加した一方、売上債権の減少などを主因として、103億円減少しました。固定資産は、その他有価証券の時価評価差額相当分の増加などにより、139億円増加しました。

金融債務残高は、当第2四半期末では1,580億円となり、前期末に比べ67億円の増加となりました。なお、金融債務残高から現金及び現金同等物を控除したネット金融債務残高は、当第2四半期末では1,285億円となり、前期末に比べ192億円の増加となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金の増加などにより、当第2四半期末では3,420億円となり、前期末に比べ181億円の増加となりました。なお、純資産合計から非支配株主持分を控除した自己資本は前期末に比べ179億円増加し、3,091億円となりました。D/E レシオ（「金融債務残高」÷「自己資本」）は、前期末と同じ0.5倍となりました。なお、ネットD/E レシオ（「ネット金融債務残高」÷「自己資本」）は、前期末と同じ0.4倍となっております。

当第2四半期連結累計期間における連結ベースのフリー・キャッシュ・フロー（「営業活動によるキャッシュ・フロー」+「投資活動によるキャッシュ・フロー」）は、62億円の資金の減少（前年同期は116億円の増加）となり、前年同期に対して178億円の悪化となりました。

〔営業活動によるキャッシュ・フロー〕

営業活動による資金の増加は4億円（前年同期は212億円の増加）となりました。これは、法人税等の支払に加え、たな卸資産が増加した一方で、回収促進により売上債権が減少したことなどを主因とするものです。

前年同期に対しては、209億円の悪化となりました。

〔投資活動によるキャッシュ・フロー〕

投資活動による資金の減少は66億円（前年同期は96億円の減少）となりました。これは、有形固定資産の取得を主因とするものです。

前年同期に対しては、31億円の好転となりました。

〔財務活動によるキャッシュ・フロー〕

財務活動による資金の減少は68億円（前年同期は110億円の減少）となりました。これは主として、リース債務の返済によるものです。

これらの結果、当第2四半期末における連結ベースの現金及び現金同等物は、前期末残高に対して125億円減少し、294億円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間の連結業績の動向等を踏まえ、平成29年7月27日の決算発表時に公表した平成30年3月期通期の連結業績予想を修正することといたしました。

なお、第3四半期以降の為替レートは、105円/ドル、115円/ユーロを前提としています。

(通期)

(単位：億円)

	前回発表	今回発表	増 減
売上高	8,500	8,700	200
営業損益	480	520	40
経常損益	470	510	40
親会社株主に帰属する 当期純損益	290	310	20

(参考：部門別)

(単位：億円)

	売上高			営業損益		
	前回発表	今回発表	増 減	前回発表	今回発表	増 減
パワエレシステム・ エネルギーソリューション	2,199	2,200	0	146	146	0
パワエレシステム・ インダストリーソリューション	2,959	3,059	100	165	180	15
発電	1,000	1,000	0	58	58	0
電子デバイス	1,171	1,204	32	98	113	15
食品流通	1,140	1,140	0	65	65	0
その他	574	589	15	17	20	2
消去または全社	△545	△492	53	△69	△62	7
合計	8,500	8,700	200	480	520	40